



真言宗 豊山派 佐渡支所だより

第 20 号

迫り来る危機に立ち向かう

人口減少、高齢化・少子化が進む中で

真言宗豊山派 佐渡宗務支所 支所長 加藤 龍久

インドブツダガヤの大塔は、仏教聖地にあるシンボリック建造物です。しかし、仏教が廃れたことにより埋没した時代があったと聞きます。時を経て日本に伝播した仏教は、聖徳太子によって広く受け入れられます。江戸時代に檀家制度ができて今日に至ります。越後上杉勢が佐渡島へ攻め入った時、寺院は改宗を迫られ、明治初期の廃仏毀釈で多くの寺院が廃寺になり、戦後の農地解放で寺院は田畑を失います。

歴史を辿ると寺院は多くの危機を乗り越えて来ましたが。今度は人口減少によって発生する危機を乗り越えて行かねばなりません。家・墓・田畑を継承するという意識が薄れ、葬式・法事に対する意識も大きく変化し檀家制度が揺らいでいます。二十年、三十年後、寺院の合併・廃寺は進むと予想します。危機的状況の今、悲嘆に暮れて将来を憂いていてはなりません。仏様とご縁を結んだ僧侶としては、かかりつけの医者をもじって「かかりつけの僧・寺院」でありたいと考えます。仏教の原初を思い起こして、生老病死に苦しみ今を生きる人々に視点を絞る方向転換です。猿の研究者が、年老いた猿は危険を冒してまで未知への挑戦はしないが、若い猿は危険である水の中へ果敢に飛び込んでいくという発表をしています。実年齢ではなく瑞々しい思考をもって危機に立ち向かって行こうと思います。これらの事柄を四年間、佐渡宗務支所の立ち位置で考えてきました。

真言宗豊山派佐渡宗務支所に所属する寺院の檀信徒の皆様、御住職・僧侶の皆様、四年間絶大なるご理解・ご協力をいただき有り難うございました。深く感謝申し上げて筆を置きます。まもなく新たな叡智ある人材にバトンタッチです。

令和六年 十一月 一日 発行
発行所 佐渡市新穂長畝一六三〇東光院中 真言宗豊山派佐渡宗務支所

発行責任者
編集委員長

加藤 龍久
池田 英雅

諸橋精光師の大型紙芝居：佐渡で初上演

六月十五日、檀信徒研修会を開催しました。今回は豊山派季刊誌『光明』に仏教説話を連載している諸橋精光師をお招きしました。「蜘蛛の糸」「もちもちの木」「月夜とめがね」という紙芝居を上演していただき、一一〇名の檀信徒・小学生の皆様が大型紙芝居を楽しんで頂きました。

孫が小さな手を合わせるのを見て

新穂清水寺檀家 本間 栄

「紙芝居」という懐かしい響きに誘われて孫と一緒に出かけました。孫は小学一年生です。初めての体験でどうなるのか、やや不安でしたが、紙芝居が始まるのが入るように聴き入り、第一話の「蜘蛛の糸」のお話の最後の方になると孫は小さな手を合わせ、何かブツブツ（お経かな?!）と言っておりました。その姿が愛らしく、きつと家族が仏様に手を合わせている姿を見ていて、自然と孫にも伝わっているのだからと思ひ嬉しくなりました。

三話あった紙芝居もあつという間に時間が過ぎました。ご先祖様に感謝する心を親から子へ、そして孫へ受け継いでいってほしいものです。



第七十六次全国檀信徒総代協議会に参加して

支所下二番 慶宮寺 総代 羽二生 裕



薫風さわやかな五月二十三・二十四日の二日間、東京都文京区にある大本山護国寺及びリーガロイヤルホテル東京において開催された標記総代協議会に出席しました。全国から豊山派檀信徒総代三十四名が参集しました。

一日目は、研修会と護国寺観音堂参拝が行われました。研修会の講師は、宗学研究所指導教授 木村秀明様より「**仏の道とは**」という演題でご講演をいただきました。まず最初に「**仏教は難しい**」という言葉から始まりました。確かに仏教は釈迦によりインドで始まり、二千五百年以上の長い歴史があり、スリランカやタイ、チベットや中国、日本へと伝わった広大な宗教です。その仏教の内容は、高度な思想、哲学、医学、数学など多岐多様であるとのことでした。

しかし、仏の教えが私たちに求めていることは、単純明快であり、分かりやすいということです。それは、『**悪いことをするな**』と『**善いことをなせ**』という二つのことです。その善悪の基準は、**仏教では苦と楽である**とのことでした。善い行いをすれば善い結果が得られ、悪い行いをすれば悪い結果がもたらされるといふ『**因果心報**』ということでした。いかにも仏教の優しさや温かさが感じられる日本の発想だと思えました。人は煩惱や欲望によって苦を招き、苦をなくせば楽が訪れる。善いこと（**悪業の反対の善業**）をすると、善いことがありますよということでした。日本には『**功德を積む**』という言葉があります。「**仏のみち**」とは、欲をかかずに自らの楽を究め、周りの人への善業を行って生きていくことが、自らの充実した素晴らしい人生につながるというお話でした。その完成者が**仏**であり、その実践者が「**菩薩**」であり「**修行者**」であり、私たち一人ひとりも菩薩であるという講演のまとめでした。

二日目の協議会では、各支所の総代から人口減少や少子高齢化、人間関係の希薄化などは、地域社会の直面している課題である。今こそ日本の家庭や家族観の再興などが重要ではないかといったご意見が出されました。この二日間、貴重な体験をさせていただき、誠に有難うございました。心より厚く感謝申し上げます。この度の報告に代えさせていただきます。

仏教婦人会佐渡支部の活動

支所下三十三番 宝蔵寺 中川 千恵子

令和六年四月より、仏教婦人会佐渡支部会長を拝命致しました。令和二年から四年まで新型コロナウイルス感染症が発生して、総会も研修会も全く開催できませんでした。

令和六年は総会后、会員の皆様の希望により新穂歴史民俗資料館で、裂き織り体験を行いました。足腰の痛さを感じましたが、すばらしい作品を完成することが出来ました。

六月は檀信徒研修会、諸橋精光師の超大型紙芝居を拝見し、九月は佐渡・信越地方布教師会の研修会で、名取芳彦先生の講演を拝聴し、貴重な体験をさせていただきました。

ご詠歌練習も七月から九月まで、月二回（八月はお盆の為休み）練習をし、十月には、相川、金井、新穂、畑野の寺院へご詠歌巡礼を予定しております。

会員の高齢化、後継者の問題等で会員数は減少しています。会員の皆様と力を合わせて、会の継続発展に励みたいと思います。



青少年研修会を終えて

佐渡仏教青年会 会長 金子 大慶

令和六年八月三日(土)普門院道場にて、第四十六回青少年研修会を開催しました。昨年同様に二箇法要(にかほうよう)多数の僧侶による法要の形式を子供達に見せてあげたいと相談し、本年度は奈良 総本山長谷寺より先生にご来島いただきまして、節(ふし)旋律(せんとく)付きの唱禮(しょうらい)お経(おきやう)の名前(なまえ)等を教えていただきました。講師の先生、仏青会員のご協力をいただき夜まで練習しました。

また、子供達も流しそうめんをすると、「家では出来ないので、準備してくれてありがとう」と言ってくれました。今年はくじ引きの景品も昨年の倍の量を用意したので、子供達は暑い中汗だくになりながら必死に探していました。

先生方が一年に渡って準備した事の全てが、成功した日となりました。

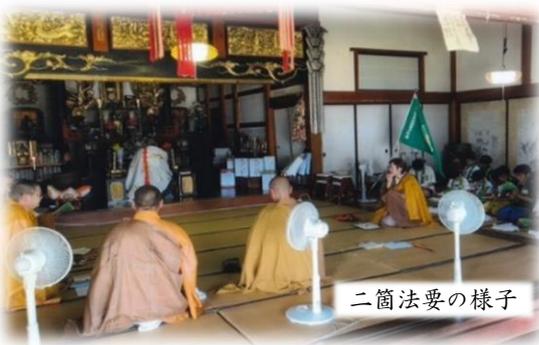
合掌



開所式



流しそうめん



二箇法要の様子

青少年研修会 参加者の作文紹介

青少年研修会

計良 美妃

流しそうめんをしました。トマトも流れてきて、とても楽しかったです。すばるさんとおにごっこもして、とても良かったです!!
最後に、くじがあちこちに置いてあるので、それを何枚か取って当たりがでたら、景品(えらべる)がもらえます。
それが一番よかったです!!



中川 礼聖

今日ぼくは青少年研修会に参加しました。
最初、ちかいのことばを発表した時は、きんちょうしました。その後は、お経をよんだりして学びました。お昼は流しそうめんをしました。最後はくじびきをしました。とても楽しかったです。
当たりは、貯金箱だったりポーチだったり、色んな景品がありました。お経の時に、せいぎをするのが良かったです。
一日ありがとうございました。



寺院探訪

佐渡宗務支所下二十五番

恵日山 えにちざん 長安寺 ちやうあんじ

佐渡市沢根 住職 津山 照光

かつて存在した沢根白山城。その裏鬼門の位置に建つ長安寺。「外堀の長安寺」といわれる。

海岸は「須川湊」。天正十七年(1589)六月上杉軍上陸地。

写真右側・山門。城裏門を移築との伝承。

天正十六年(1588)本間吉郎兵衛寄進。

昭和五十六年(1981)改修。

写真中央より左側・長屋門。漆喰壁。武士のみ許可。菱形「武者窓」が印象的。約三百年前の建築。平成二十四年(2012)改修。

長安寺全景



散見。本堂は二度全焼。現本堂は、平城本間氏により再々建。

寛政元年(1789)二月。昭和五十五年(1980)改築。

本尊は不動明王。最古の仏像は歡喜仏(絵・左側)。

初代は、法印海秀。長禄元年(1457)寂。

昭和四十七年(1972)五十里の吉祥寺と合併。

什宝の六角寶幢式経筒(絵・右側)。銘にある。

「奉納大乘妙典六十六部」・「下野国之住・道心 弘治三年 今日日」

弘治三年は1557年。「六十六部廻国巡礼」と関連。

平城・吉郎兵の両本間家とも直系ご当主健在。

沢根定住上杉家臣団に「本間」を名のった者が居り、檀家に現存。米沢定住の本間一族に「沢根」と名のった家が有り、彼地に現存。関連は不明だが静岡県浜松市某所には、「沢根」家が十数軒現存。来寺した浜松在住沢根氏は、「沢根がルーツと伝承されている」と。

「人は城、人は石垣、人は堀、. . .」。



絵：近松 行雄

真言宗 お寺のQ&A



↑ これは、何のマークですか？

A、これは「輪違(わちがい)」と言って、真言宗豊山派の宗紋(宗派を象徴する紋章)です。ここでは山吹色ですが、色の決まりはないようです。

豊山派僧侶の袈裟や持ち物、この支所便りにも使用しています。

「輪違(わちがい)」は、凡聖不二(ぼんじょうふに)という

仏さまと私たち衆生(しゅじょう)は、同じで異なることはない。という教えを表わしています。

能登半島地震災害 義援金の御礼

六月十五日に行われた檀信徒研修会にて、募金をお願いした所皆様の温かいご協力のおかげで、51,600円もの御寄付が集まりました。お預かりした義援金は、六月十八日 佐渡市社会福祉協議会へ能登半島地震災害義援金として届けましたことをここに報告致します。ご協力頂きました皆様へ、心から厚く感謝申し上げます。

被災地が一日も早く復旧し、復興へと歩みを進められるよう心よりお祈り申し上げます。

